

山形大学農学部

2020 学部案内





オリジナルな農学を学んで 地域やグローバルな課題に挑戦しよう

山形大学農学部長 林田 光祐



農学は食料・環境・エネルギー問題など人類が直面している様々な課題の解決を目標とした総合科学です。山形大学農学部は、このことを重視して、1年次に農学全般を広く学び、2年次から自分の学びたい専門を深く学ぶ、1学科制で教育を行っています。

豊かな自然と食と農の文化に恵まれた環境で、地域が抱える課題を身近な現場のフィールドで学ぶことができることも本学部の大きな特徴です。さらに、国際交流も活発に行っており、約50名の留学生がそれぞれの研究室でゼミや調査、実験など一緒に学んでいます。

これらの特徴をさらに伸ばす3コース3プログラム制へ昨年度から変えました。3コースにそれぞれの基幹プログラムとコース横断的な2つのプログラム（国際展開プログラムと地域創生プログラム）を設けることにより、どのコースからでも、国際化や地域創生に対応した教育プログラムを受けることができます。自分の目標と将来を見据えながら、コースとプログラムを組み合わせ、各自のオリジナルな農学を学んでください。

農学部で学び身につけた総合力で、地域やグローバルな課題を解決し、幅広く活躍されることを期待しています。



鶴岡キャンパス



高坂農場



上名川演習林

附属やまがたフィールド科学センター

エコ農業部門（高坂農場）、流域保全部門（上名川演習林）および社会教育部門の3部門で構成されています。



エコ農業部門（高坂農場）

本部門は稲作を中心に畜産・果樹・野菜の生産部門がそれぞれ高収量・高品質の生産を目指し、一貫して土地生産型農業の教育研究を行ってきました。しかし、我々が生きている環境の悪化と農業をとりまく環境の変化により、多化学肥料・多農薬散布に依存した高生産性追求の農業を見直し、環境に優しい農業技術の確立が求められています。そのような状況の中、本部門は水稻栽培を基盤とし肉牛生産を有機的に結びつけた物質循環・環境保全型農業を確立し、環境に優しい持続可能な農業を目指した教育・研究を行っています。



流域保全部門（上名川演習林）

上名川演習林は農学部キャンパスより南に約26km、朝日山地の急峻地帯に位置しています。森林面積753haのうち約80%をブナ主体の天然生落葉広葉樹林が占めており、年平均最大積雪が約3mにもなる豪雪地帯です。このような演習林の自然的特性を生かし、森林生態系と積雪環境の相互作用や水循環及び物質循環に関する教育研究を行っており、地域の伝統的な栽培方法である『焼畑』による赤カブ栽培の実践場としても活用しています。また、地域に開かれた大学演習林として、市民を対象に公開行事を開催しています。



社会教育部門

エコ農業部門（高坂農場）、流域保全部門（上名川演習林）と連携し、体験学習、生涯学習およびリカレント教育を行うとともに、開発途上国の農業技術者の研修受け入れ、国際連携研究などの国際貢献を担当します。また、地域文化に込められた人と自然が共生していく知恵を、これからの環境保全型社会の構築に活用する方策を研究します。さらに、広く社会に開かれた大学として地域社会との連携を強化するためにコーディネート機能を重視するとともに、農林生産様式の変化に伴う地域情報の収集、管理発信を行います。

国際交流活動

山形大学農学部では国際交流を活発に行っています。

長年にわたる国際交流の実績に加え、2016年度から、国際化推進期間としており、「食と農業と環境」をキーワードにした学生の海外派遣・受入れを実施し、さらなる活発化を図っています。3年間で、7カ国へ111名を派遣、8カ国から112名を受入れました。海外協定校の学生と共に学び、活動することを通じて、国際理解を深め、グローバル社会で活躍できる人材を育成しています。今年度からは、将来、国際的に活躍したい学生を対象とする国際展開プログラムを設置し、さらなるグローバル人材育成に取り組めます。

◆学部間学術交流協定大学
10カ国32大学

◆留学生数（2019年4月1日現在）
正規生として9カ国から35名の他、
17名の短期留学生を受入れています。

◆平成30年度

派遣実績 41名
ドイツ・スペイン12名、タイ19名、
インドネシア10名

◆平成30年度

受入実績 45名
ドイツ17名、インドネシア15名、ベトナム5名、
タイ5名、中国1名、韓国1名、バレー1名

ドイツ ハノーヴァー大学へ



山形大学農学部3年
高橋 友里

自分の目で見て話を聞いて、気づいたこと、知ったことがたくさんありました。広い視野を持つことと様々なことに挑戦していくこと、自分の言葉で伝えることの必要性を感じました。



ポーランドとの国境にある国立公園



採掘用のエネルギー供給に約800年にもわたって使われていた水利システムの見学

山形大学農学部に入學してから卒業まで



コースと履修プログラム

1 学科におかれる3つのコース

基礎科目の履修をもとに、自分の興味や適性に合わせて、1年次後期にコースを選択し、2年次からコース配属となります。

アグリサイエンスコース

安全な農畜産物を持続的かつ安定的に生産するための理論や技術を学びます。さらに、限られた資源（物的資源、人的資源）を有効に利用するためのマネジメントについて学びます。

【主な授業科目】
作物学、園芸学の基礎、畜産学、植物保護学、食料生産技術学、食料生産経営学、農業政策と地域振興、フィールド科学、フィールド科学実験実習Ⅰ・Ⅱ、食料生産基礎実験実習Ⅰ、食料生産専門実験実習Ⅰなどがあります。

【取得可能な資格】

食品衛生管理者及び食品衛生監視員、食の6次産業化プロデューサー（レベル3）
測量士補（※申請中）、樹木医補（※申請中）、自然再生士補（※申請中）、GIS学術士（※申請中）
※2018年度までの入学者はすでに取得が可能な資格であり、現在、2019年度からの新カリキュラムでの申請中です。

バイオサイエンスコース

植物や高等動物、微生物など多様な生物を対象とし、これらがもつ生理機能の解明、有用機能の探索・改良など、広範囲な農学の領域を基礎から応用まで学びます。

【主な授業科目】
バイオサイエンスコース実験Ⅰ・Ⅱ、基礎有機化学、基礎生化学、分子生物学、動物栄養生理学、基礎植物栄養生理学、微生物学、食品科学、在来植物資源学、農産物生理学、食品衛生学、遺伝子タンパク質工学、土壌生物資源学、動物発生工学、植物育種学などがあります。

エコサイエンスコース

農林業の基盤となる自然環境や生態系のメカニズム、機能を理解し、それらが産み出す恵みを享受しながら、将来に渡り持続可能な形で管理、保全するための理論や技術を学びます。

【主な授業科目】
農村計画学、森林資源利用学、応用力学、水理学、水文学、測量学、森林生態管理学、林業経済学、森林影響学、流域保全論、里山管理学、森林動物学、自然環境解析論、森林調査基礎実習、水士環境実験実習などがあります。

3つの履修プログラム

各コースにおける課題を解決するための理論や技術を学んだ後に、3年次には

- ・専門分野のより高度な知識の修得を目指す **「基幹プログラム」**
- ・学んだ理論や技術を活かしてグローバルに活躍したい学生を対象とする **「国際展開プログラム」**
- ・地域の活性化に貢献したい学生を対象とする **「地域創生プログラム」**

の中から、自分の将来を見据えて、履修プログラムを1つ選択します。

基幹プログラム

サイエンスを追求しながら、アグリ、バイオ、エコの各コースについて、それぞれの課題を解決するためのより高度な理論や技術を学びます。

【主な授業科目】

アグリサイエンスコース：
食料生産科学専門実験実習Ⅱ、食料生産研究準備演習、食料生産研究演習Ⅰ・Ⅱ

バイオサイエンスコース：

バイオサイエンス研究演習Ⅰ・Ⅱ、バイオサイエンス英語演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、バイオサイエンスコース実験Ⅲ

エコサイエンスコース：

エコサイエンス研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

国際展開プログラム

外国人留学生・研究者との交流を含めた演習、海外実習などを通じて、語学力の向上を目指すとともに、異文化理解、多文化共生社会への対応等、グローバル化の進む社会に必要な国際的感覚を身につけます。

【主な授業科目】

国際展開プログラム概論Ⅰ・Ⅱ、国際理解Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、グローバル食農環境論、国際展開プログラム演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、国際農業演習、英語コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ、Intensive Scientific Communication Course などがあります。

地域創生プログラム

食や農を核とした地域振興のニーズにこたえるべく、地域の活性化とその好循環の維持を実現するための地域社会をマネジメントする方法を学びます。

【主な授業科目】

地域創生論Ⅱ、地域創生プログラム実習、食と農のビジネス論（社会人とともに学びます）、さらに学科やコースの共通科目の中で地方創生に関わる科目を選択履修します。

大学院への進学

山形大学農学部では大学院の教育・研究に力を入れており、大学院進学を推奨しています。

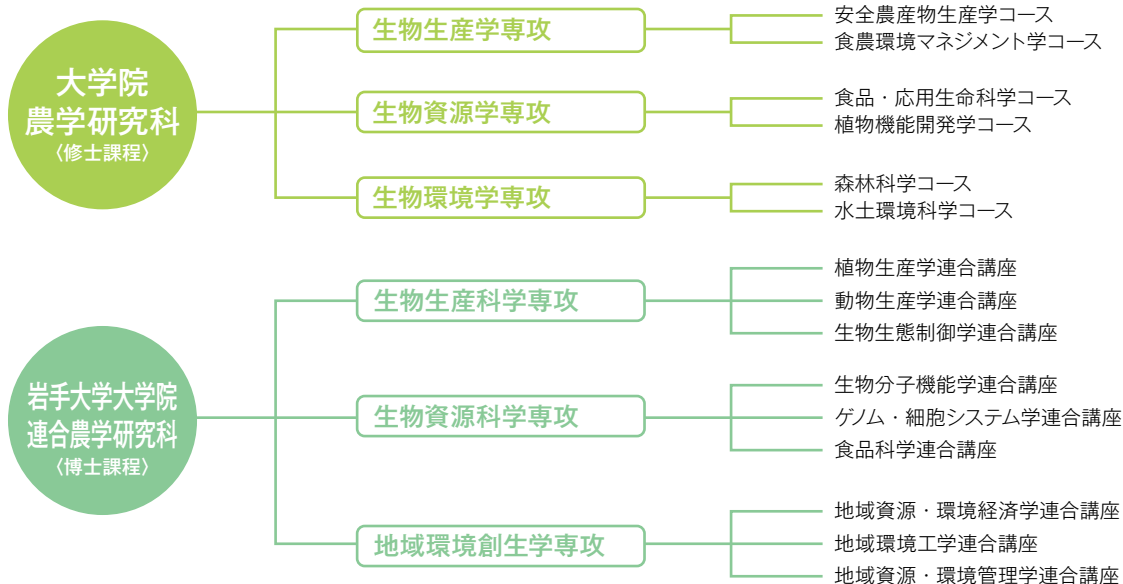
大学院農学研究科（修士課程）には、生物生産学専攻、生物資源学専攻、生物環境学専攻の3専攻が設置されています。

この修士課程では、2019年度から新たに、ドイツのハノーヴァー大学とのダブル・ディグリープログラムを始めました。

1年間のドイツ留学を含むこのプログラムを修了した学生は、両方の大学から修士の学位を取得できます。

博士課程については、山形大学、岩手大学、弘前大学の3大学で大学院連合農学研究科を組織し、各構成大学の特色を生かした教育研究を行っており、その中で、本学教員の指導のもとで研究を進めることができます。なお、本学の修士課程からの進学者（過去3年間に修士課程を修了した方も含む）は入学科が免除されます。

■ 大学院組織図

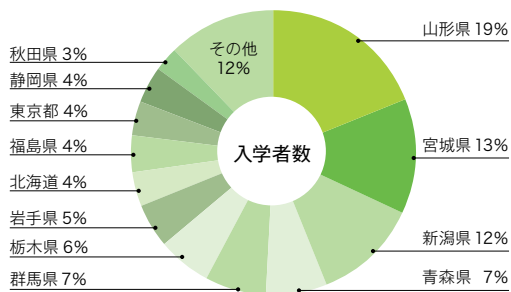


入学試験データ・就職&進学データ

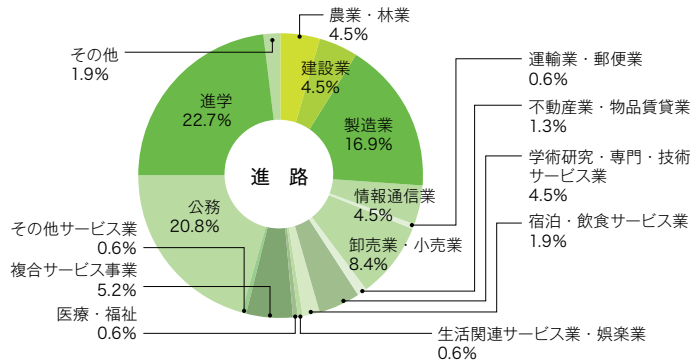
■ 2019年度 入学試験実施状況 (2019年4月1日現在)

学部	学科	選抜名称	募集人員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		志願倍率
				男	女	男	女	男	女	男	女	
農学部	食料生命環境学科	前期日程	95	111	72	107	70	69	45	62	41	1.9
		後期日程	25	85	80	85	80	15	22	8	6	6.6
		AO入試Ⅱ	5	13	12	3	6	2	4	2	4	5.0
		推薦入試Ⅰ	40	35	33	35	33	17	25	17	25	1.7

■ 2019年度 地域別入学者割合



■ 就職・進学データ



■ 就職

JA全農/JA鶴岡/越後製菓(株)/株佐藤渡辺/株シジシージャパン/株雪国まいたけ/菊の司酒造(株)/山崎製パン(株)/雪印メグミルク(株)/日本食研ホールディングス(株)/農林水産省/国土交通省/厚生労働省/国立研究開発法人農研機構/山形県森林組合連合会/全国の都道府県庁・市町村の役所

■ 進学

千葉大学大学院/東京農工大学大学院/東北大学大学院/奈良女子大学大学院/新潟大学大学院/山形大学大学院/鹿児島大学大学院

■ 就職率の推移

(就職決定者/就職希望者)

平成28年度	平成29年度	平成30年度
100%	100%	100%

※就職・進学データは平成30年度卒業生のもので、※就職先・進学先は、平成30年度の実績（抜粋）です。

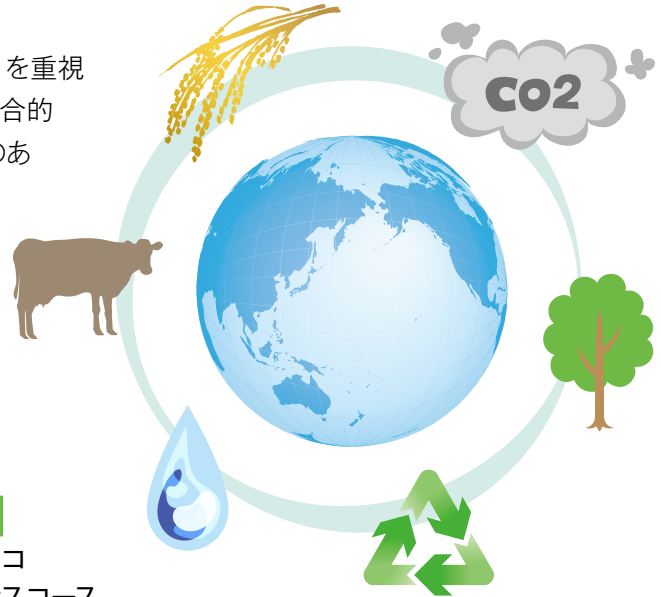
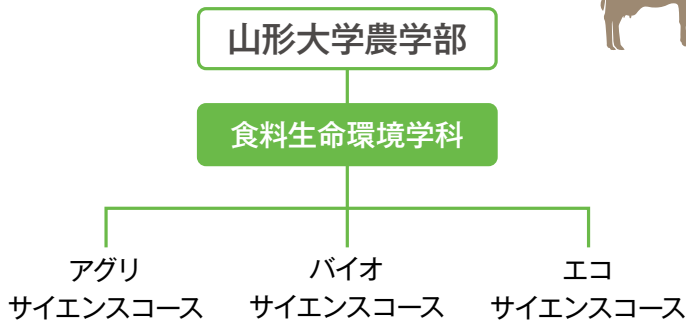
山形大学農学部の特徴

1 総合科学としての「農学」を重視した教育体制

人類が地球規模での危機的な食料、環境、エネルギー問題に直面している今、このような複雑な課題を解決するには、応用力と総合力が必要となります。

山形大学農学部では、総合科学としての「農学」を重視した1学科制により、食料、生命、環境科学を総合的に学習し、総合的な判断力を有したバランス感覚のある人材育成を目指しています。

■ 組織図



2 2019年4月より1学科3コース3プログラム制で総合力をさらに重視した教育へ

- ◆1学科制のメリットを活かし、「国際化」と「地域創生」を充実させたコース横断的プログラムを設けました。
- ◆どのコースでも専門性を深く追究するプログラムまたは総合力を身につけるプログラムで学ぶことが可能です。
- ◆6コースを3コースに再編し、各コースで学べる幅が広がりました。

2019年3月までの1学科6コース

食料生命環境学科
安全農産物生産学コース
食農環境マネジメント学コース
食品・応用生命科学コース
植物機能開発学コース
森林科学コース
水土環境科学コース

2019年4月からの1学科3コース

食料生命環境学科
アグリサイエンスコース
バイオサイエンスコース
エコサイエンスコース

3 豊かな文化と自然環境、身近なフィールド

山形大学農学部は日本有数の穀倉地帯であるとともに、豊かな自然に恵まれた庄内平野に位置しており、農学、生命科学、フィールドサイエンスなどを学ぶ場として最適の条件を備えています。

- ◆山形大学農学部のある鶴岡市は、
「食文化創造都市」日本初（2014年）ユネスコ認定
「森林文化都市」（群馬県沼田市、埼玉県飯能市、山形県鶴岡市）
- ◆山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター
24haの広大な農場と753haの広大な演習林



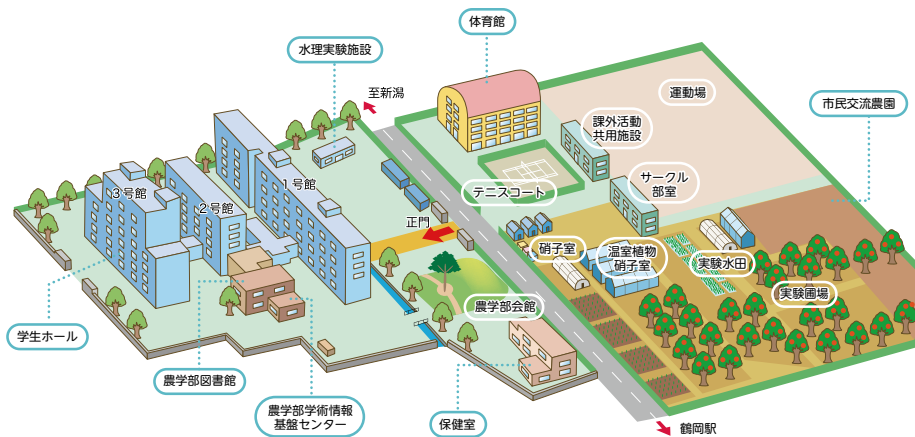
学生寮

名称	啓明寮
対象	農学部2年次以上 鶴岡キャンパス履修者
定員	男子36名・女子35名
寄宿料(月額)	18,000円
所在地	鶴岡市若葉町12-4
キャンパスまでの距離	鶴岡キャンパスまで500m
建築年	2013年改修
主な設備	ユニットバス、トイレ、ミニキッチン(IH)、 冷暖房エアコン
共同利用の設備等	ラウンジ、面会室、洗濯室(コインランドリー)、 倉庫、トイレ、自動販売機コーナー
1ヶ月あたりの概算経費	約25,000円 寄宿料: 18,000円 光熱水費: 約7,000円



※寄宿料(月額)に食費や光熱水費等は含まれておりません。
※学生寮はすべて個室です。

鶴岡キャンパス



アクセス

東京から	東京駅	JR新幹線	新潟駅	特急いなほ	鶴岡駅	徒歩	山形大学農学部 鶴岡キャンパス
			2時間	2時間		20分	
羽田空港	羽田空港	全日空1日4便	庄内空港	リムジンバス	鶴岡エスモール バスターミナル	徒歩	
			1時間	25分		10分	
仙台から	仙台駅前 (広瀬通40番)	庄内交通・宮城交通・山交バス・羽後交通			鶴岡エスモール バスターミナル	徒歩	
		共同運行高速バス	2時間45分			10分	
山形から	山形駅前 (①番のりば)	庄内交通・山交バス			鶴岡エスモール バスターミナル	徒歩	
		共同運行高速バス	1時間50分			10分	



山形大学 農学部

〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町1-23
TEL/0235-28-2911 FAX/0235-28-2836
E-mail: nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

<https://www.tr.yamagata-u.ac.jp/>

Web TOPへ



●この山形大学農学部案内で不明な点や、より詳しく知りたい方は、左記までお問い合わせください。

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。